千葉駅帰宅困難者対策実動訓練（平成29年11月9日実施）

資料3－1　参考資料

《地震発生》
平成29年11月9日（木）　　午前9時30分

想定
〈地震規模〉
　千葉市直下を震源とする大規模な地震が発生。 地震の規模は、マグニチュード7．3と推定され、千葉市内では震度6強の揺れに襲われた。

訓練上の時間	想　定	訓練項目	行　政　機　関		交　通　機　関		宿泊施設・商業施設等	一時滞在施設			帰宅困難者
			中央区役所、危機管理課、鉄道警察隊、中央警察署、千葉市警察部、消防局警防課、千葉県防災政策課 千葉市観光協会		JR千葉駅、京成電鉄、千葉都市モノレール		千葉商工会議所、そごう・西武、千葉センティ、千葉ショッピングセンター、京成ホテルミラマーレ、三井ｶﾞｰﾃﾞﾝホテル千葉、千葉ステーションビル、千葉県バス協会	千葉市生涯学習センター	千葉競輪場、千葉サイクル会館、千葉県文化会館、千葉県本庁舎・中庁舎・南庁舎、千葉財務事務所、		千葉中央看護学校、JR蘇我駅 ウェストリオテナント会 千葉市身体障害者連合会 千葉市国際交流協会（外国人） 千葉市中央区蘇我ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ 京成ホテルミラマーレ
9:30	千葉駅では、交通機関（JR、京成、モノレール）の運行停止により、多数の帰宅困難者が発生した。	○　緊急連絡体制に伴う通信訓練	緊急連絡体制に基づき、状況把握を行う。	JRの訓練場所にて待機する。	緊急連絡体制に基づき、状況把握を行う。	JR、京成、モノレールに分かれて待機する。	緊急連絡体制に基づき、状況把握を行う。	緊急連絡体制に基づき、状況把握を行う。	緊急連絡体制に基づき、状況把握を行う。	JR、京成、モノレールに分かれて待機する。	JR、京成、モノレールに分かれて待機する。
9:50	大地震により、駅利用者を安全な場所に誘導したところ、負傷者がいた。	○　駅構内での利用者保護訓練 （訓練場所は、1箇所で想定）		鉄道警察隊、千葉中央警察署は、帰宅困難者を警備する。		駅員は、駅利用者を駅構内の安全な場所に誘導する。 また、肢体不自由者の対応及び負傷者1名の応急処置を行う。	中央区役所より、対応状況票を受取り次第、訓練終了とする。	施設の安全確認をチェックリストをもとに行う。 対応状況票を用い、受入可の連絡をする。		駅員の誘導に従う。 モノレール、京成の帰宅困難者は、JRの訓練場所に移動する。	駅員の誘導に従う。 千葉中央看護学校は、JR駅員と協力して、負傷者1名の応急処置を行う。 モノレール、京成の帰宅困難者は、JRの訓練場所に移動する。
10:10	千葉駅では、交通機関（JR、京成、モノレール）の運行停止により、多数の帰宅困難者が発生したため、震災状況や運行状況等の情報提供を行う。	○　一時滞在施設の開設状況などの情報提供訓練	中央区役所は、対応状況票を完成させて、情報の提供を行う。 千葉市観光協会は、外国人に対しての情報提供を行う。 中央区役所は、生涯学習センターに一時滞在施設の開設を依頼する。		一時滞在施設の開設状況等の情報提供を行う。 また、千葉市観光協会と連携し、外国人に対しての情報提供を行う。		（訓練終了）	受入の準備を行う。	情報提供場所にて、一時滞在施設等の開設状況等を確認する。		情報提供場所にて、一時滞在施設等の開設状況等を確認する。
10:25	帰宅困難者約100名を、千葉市生涯学習センターへ移動することとなった。	○　一時滞在施設への誘導訓練	千葉中央警察署は、経路上の信号がある箇所に警察官を配置（4箇所、4名程度）し、帰宅困難者の安全を図る。		駅員は、帰宅困難者に一時滞在施設までの移動経路を説明し、誘導する。				誘導に従い、一時滞在施設まで移動する。		誘導に従い、一時滞在施設まで移動する。
10:35	一時滞在施設に到着した帰宅困難者の一時受入を行う。	○　一時滞在施設受け入れ訓練	誘導後は、控室で待機。		誘導後は、控室で待機。			帰宅困難者の受入を行い、物資を支給する。	受付表を記入し、物資を受取る。		受付表を記入し、物資を受取る。
11:20 11:50		○　訓練後の意見交換	意見交換へ参加		意見交換へ参加			意見交換へ参加	意見交換へ参加		意見交換へ参加